



碧南ロータリークラブ週報

第2173回例会 平成15年4月23日(水) 晴. 最高20℃. 最低14℃

- 会長 長田 昌昇 ● 幹事 平岩統一郎 ● SAA 亀山 裕一
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 碧南市源氏神明町90番地
TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 加藤知彦・竹下 豊・竹内光博・新美惣英



● 斉 唱

ロータリーソング「ロータリー讃歌」

● 本日のメニュー

和風弁当 とんがり帽子

● 本日のお客様

卓話講師

キャッスルヒル カントリー所属プロ 児玉 年且氏



会 長 挨 拶

昨年、日本の代表企業と言われている会社の不祥事が相次ぎ、企業のモラルが問われました。「世直しの為の25の提案」と題して、その一つが「心のこもった謝罪をする事」と報じていました。

往々にして、謝罪をすると責任を認めることになるとして、悪事が発覚しても否認し続けたり、部下のせいにして惚けたりする企業トップが多かったのはすでにご承知の通りです。その結果最後には悪事を認め、企業トップの謝罪と引責辞任に至り、消費者からもひんしゅくを買い、会社にも多大なダメージを与えました。

「過ちを認め心のこもった誠意ある謝罪をする方が、より懸命な善後策となる事が多い」と言っております。

イギリスにおける医療ミスに関する調査では、訴訟を起こした人達の37%が「もし医師から誠意ある謝罪と説明があったら訴訟は起こさなかった」と回答しているそうです。

不幸にして会社が不祥事に至った場合は、誠意ある説明と謝罪をして、被害者、消費者の怒りを和らげることを企業は真剣に検討すべき時が来ていると結んでいました。皆さんは如何にお考えですか。

さらに「小学校前の教育の重要性」も強調しております。

アメリカの貧困層の全児童を幼稚園に通わせるには、年間3兆円が必要になるとの事ですが、その効果は絶大で「犯罪者の減少に繋がり、納税者やら質の高い労働者が増えるからだ」と言っております。調査によると貧困児童への1ドルの投資が4ドルの利益を生むとの事ですが、本件はわが国にはあまり関係がないようです。その他、世界人口の3分の2が年収18万円以下なので、その人達に売り込む為に「簡単に使える、非常に安い商品」を提案し輸出するという案もありました。皆さん考えてみてはどうでしょうか。

幹事報告

近隣クラブ例会変更等は、お手許の資料の通りです。(詳細は各クラブにお問い合わせください)

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数 77 名 (内出席免除者 15 名) 出席者 61 名	
出席対象者 50 / 62 名	出席率 80.65%
欠席者 16 名 (病欠者 0 名)	前々回修正出席率 100%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

長田 昌昇君 ようこそ児玉プロ。皆さんのゴルフがうまくなるお話をお願いします。手遅れですか。

平岩統一郎君 所用でメーキャップが続きました。

杉浦 求君 本日の講師プロゴルファー児玉プロを紹介いたします。

早退 5 件 合計 11,000 円

みなさん、最近あまりニコボックスがありません。ご遠慮なさらずによりしくお願いします。

〈ゴルフ部会〉

ゴルフ部会より連絡させていただきます。6月の遠征ゴルフのことです。遠征先が決りまして、長野県の安曇野カントリークラブに決りました。6月18日の14時例会終了後、商工会議所の前からバスにて行きます。宿泊先は鈴木荘というゴージャスな別荘

でございます。天然温泉です、是非ご参加していただきたいと思います。ラウンドは6月19日木曜日の朝8時35分スタートということで開催され、碧南に帰る予定時刻は19時ということでございます。是非参加していただきたいと思います。また、先月に6月度の遠征ゴルフの出欠席をお願いいたしましたけれども、再度出欠席の方の提出をお願いしたいと思います。よろしくお願います。

卓話

「プロゴルファー、よもやま話」

キャッスルヒルカントリー所属プロ 児玉 年且氏

児玉と申します。よろしくお願いたします。

葵カントリークラブに石井茂さんという支配人がおみえになりました。その方が伊東の川奈の出身でありまして、あと数年で葵を定年退職するので地元からプロを育てて帰りたいということで、当時グリーンキーパーであった柳生さんとか、何人かの方が一緒に行っていましたが、一番横着な僕だけが最後まで残りまして、なんとかプロになることができました。

ゴルフというのは、接してしまってもう離れられない恋人みたいな感じでありまして、かといって、いつも優しいかというと全然そんなことはありません。冷たく突き放されたり、優しくされているのかなあとこっちは勘違いするほど、いいショットが出たりいいスコアになったりしますが、時として場面が変わると、先程はなんだったんだろうかという事がちょくちょくあります。そういう意味では、ゴルフというものは、忍耐力を持って着実に努力をしていかないといけないスポーツです。それだけに、自分の人生をかけてみよう、今はそうなんです、自然に思うようになりました。それで葵カントリークラブに入りました。実は葵に入った時は無給で石井先生並びに三名のプロの下でお世話になりました。

石井先生は、お前は従業員の方が働いているそういう場所を使わせてもらっている立場だから、従業員の人が休みの時こそ、葵に来て仕事をしなさい、手伝いなさい、とよく言われました。ですから、葵カントリークラブは月曜日が定休日なんです、月曜日になるとコースの中に肥料袋を持って煙草を拾いに行ったり、グリーン刈りをしたり色んな事をさせていただきました。そ

の甲斐あって、ゴルフに必要な忍耐力というかそういうものを石井先生のおかげで養うことができたんじゃないかなと自分なりに思っています。

湯原信光さんが葵カントリークラブに石井さんを頼って練習に見えました。実は湯原さんとは同級生で、名商大ゴルフ部として対外試合に参加したその時に接していました。

その湯原さんも石井先生を頼って練習に来ました。日本の一流の技術を持った人間がこんな身近に居て、なおかつ皆さんの知らない所でこんなに努力をしているのだということを知りました。湯原さんの話になるのですが、あの方は実はあまり豆が出来るようなタイプではないのです。それは、グリップを握る強さ加減があまり強くないということなんです。本人に聞くと、それは豆ができやすいタイプだとかできにくいタイプだと言ってちょっと話をそらされるのですが、私が色々スイングのことを研究した結果、やはりグリップの強さ加減、例えば、皆さんのグリップをぎゅっと握る力を10だとしますと、5以下の力で握るぐらい、そっと握ることはクラブのヘッドというか、要するにトンカチで釘を打つようにしなやかに使え、ゴルフのクラブをしなやかに使える。皆さん釘を打つ時にしっかり握ってトンカチは打たれないですよ、必ずトンカチがすっぽ抜けない程度の力で握られる。それはゴルフのクラブも一緒に、すっぽ抜けるようなんですが、実はすっぽ抜けません。これは、例えば、キャッスルヒルへ来ていただくと、できるんですけども、練習場でクラブを一度ぼーんと放り投げてみてください。本当になかなか抜けないものです。それぐらい、ふわっと握ることによって、しなりが使えて球が弾けるようになります。これは、私昭和60年にプロになって、ゴルフ界に身を投じて今24年なんです、つい最近知ったことなんで、24年間かけて学んできたことを、今ここで皆さんにお教えすると、皆さんにとっては24年練習しなくてもこの一瞬で何か覚えて頂いた事になります。

ゴルフの技術は色々ありますけれども、やはり一番大切なのは、アドレス、どこを向いているか、やはり間違った方向を向いていけば、動作も間違った方向へ使ってしまいます。皆さんも会社のオーナーとしてご自身たちの個々のスタンスがあると思います。それが間違っていたら正しい方向に進まないのと一緒で、ゴルフもそういうスタンスというのが非常に大切です。その次に大切なのが、今言いましたグリップの強さです。本当にこの場面で湯原さんが居たら、なぜそんなことを教えてくれなかったんだろうかと聞きたいんですけども、でもやはりプロ同士というのは、特にあの人にとっては僕は弟弟子にあたるんですけども、そんなことは自分で努力して掴むもんだと、常々そういう形で湯原さんとは接しさせていただいております。

先ほど、少しバンカーのことを悩んでいるからちょっと教えてくれないかと質問を受けました。皆さんには内緒ですよということで話をさせていただきました。バンカーが苦手な人は青木さんに聞いてください。

私にとってのゴルフ、皆さんにとってもゴルフというのは、自分とコースとの戦いだと思いがちだと思うのですが、ゴルフというのはもともと自分自身との戦いです。これは、いかに自分を知るかということですよ。自分をやっぱり理解して自分のできる能力を知り、その自分の限界を知ること、それがまず大切だと思うんです。コースではそういうことを大切にプレーをされる。練習場ではそうではなくて、自分の能力を少しでも高めるために努力をしていただく。ですから、練習場とコースというのは全然別なものとしてお考えいただいた方がいいんじゃないかと思えます。皆さんもゴルフなされる方が多いと思うのですが、ゴルフコースに行くと、例えば、コンペ等一番のティーグラウンドですごくプレッシャーかかたりなさると思うんです。そのプレッシャーも周りのせいなのですが、結局作るの自分自身がそういうふうプレッシャーだと感じてしまわれることが、いけないというか、そういうところが一番ゴルフの楽しみ、またその時の結果はどうあれ、その時間を過ごしたということが、また自分の自信へもつながり、勇気付けられ、ホールを増すごとにどんどん自分の気持が高まっていく、また高めていくと思っていた方がいいと思います。1番のティーショットでいいショットを打ちたい、みんなが見ている前でいいショットを打ちたい。一番のティーショットでいいショットを打ちましたら後は何もないです。やはり、ゴルフっていうのは、18ホール回るうちに、1番よりも2番、2番よりも3番というふうにして、徐々に自分の気持が高ぶるとか自信がもてるというか、そういうふうになることが一番いいんじゃないかと僕は思います。そうすると、じゃあ1番のティーショットはどうでもいいのか、というと、やっぱりどうでもいいという事では困ると思うんです。ただ、そういう中で、ものすごくゴルフを優しく感じたりする時もあると思うんです。それこそ、みなさんわかった、あっ、これでわかったぞという言葉は度々あると思います。実は僕もあります。でも、それはよくよく考えてみると偽りの安心感じゃないかなあと思います。ゴルフというのは、

パーフェクトにできるものではありません。ボウリングはストライクを12回続けるとパーフェクトなんですけれども、ゴルフは18ホール全部ホールインワンすることは人間にとって不可能だと思います。ただ、私も実は今までゴルフをしてきまして、一度だけ、あっこれはもう少してゴルフって自分のものにできるなあというふうに感じた事があるんですが、実は私ベストスコア63なんです。それはキャッスルヒルカントリークラブで出したんですが、その時も実は9番でスリップアウトしてボギーを打って、30だったんです。ハーフ30です。これで、もうよし、俺も一流プロだなあなんて勘違いしてしまいました。それも皆さんがよしわかったというのと大なり小なり同じではないかなあとと思います。

人知を尽くして天命を待つ、もうゴルフはそれしかありません。たとえ失敗しても、たとえそのベストを尽くしたとしても、失敗に終わるかもしれませんけれども、その失敗とその失敗をした以降、その失敗とどういうふうにつき合うかということが、その日のゴルフを良くするか悪くするかになってきます。例えば、ハーフは30台で回ったんだけど、後半は52だったとか、そういうゴルファーはたくさんみえると思います。30台を出されたゴルフもその人のレベルです。52もその人のレベルです。どちらも同じなんです。ただ何が違うんだろうか、人間の細胞って時間によって移り変わりますから、そんな人間の細胞の話までされると、皆さん困ると思うでしょうし、僕自身も人間の細胞は日々変わるんですといわれてもそんなのは関係ない、分からないという話だと思うんです。ただ、例えば失敗したものが、いや大丈夫と思って次のショットを打つか、ああ駄目だなあと考えて次の動作に入るか、そんなのは当たり前じゃないか、うまくいくと思って打つしかないんだよと思われるでしょう。でもその場へ行くと皆さん、おかしいなあになってしまう人達の方が多いんじゃないかと思うんです。でもそれを次回のゴルフの時にそんなふうに思わずに、例えば安定したスコアとか安定したショットを望みたいのであれば、やはりまず大事なことは安定した考えを持つことです。できるだけゴルフはラウンド中にバーディがとれた、凄くいいショットになった、でもあまり自分の気持ちを浮き沈みさせない方が、私もゴルフに携わっている人間として成功する一途でないかなあとと思います。

最初に紹介していただいた時に、ゴルフの上達する方法は何かと言われました。悲しいかな、ゴルフはそういう虎の巻みたいなものはありません。ラウンド中に何が起きても、やはり安定した気持ちを持つ、それが大切なんじゃないかなあと、またそれに伴って献身的な努力ですよ、ただその努力はすればいいというものではないと思うんです。やはり、それなりに間違っただけ練習を何時間もするよりは、ゴルフのことを分かってる人に、グリップはどうなんだろうか、アドレスってどうなんだろうか、というのを聞いた上で練習をされる事の方がどれだけプラスになるかと思えます。

人間は必ず持った容量があると聞きます。実は湯原さんのお父さんに、「児玉君、信光は小さい時から体を使っているからあと少ししか残っていない、でもお前はまだ使っていない」と、言われましたので僕はその容量がきっと50歳になってから現れるだろうと思っています。それでそのために5年計画で私は自分を奮い立たせてがんばっていきたくと思います。その時には、是非応援をしていただきたいと思えますし、また来年から飯合さん、尾崎建夫さんがシニア入りをしてきます。シニアも私のコースでトーナメントをやっていますけれども、やはり盛り上がりも今ひとつ欠けています。ああいう人達が参加していただくことによって、シニアのトーナメントがアメリカのように盛り上がり、ゴルフというものがやはり年齢層が高い人達しかできない中で、下の人達の発掘もあるんですが、まず上の人達から盛り上げて下の人を引き上げようと思えます。

そんなことで、キャッスルヒルカントリークラブとシニアオープンを、是非一度見に来ていただきたいと思えます。そんな中で、私ゴルフ界に身を投じさせていただいて、色んな人たちに出会うことができ、また現在もここにお見えになっている皆さん、杉浦さんを始めゴルファーの皆さん、そういう人たちに将来恩返しができればなあというふうに思っています。なんかつまらない話でしたけども、そろそろお時間のようなのでここで終らせていただきたいと思えます。本当にどうもありがとうございました。

次回例会案内／5月14日（水）「地区協議会報告」